



発行者
文京学院大学
女子中学校
水上 茂

英語暗唱コンテスト
～ 学年一位を頂いて ～

三年菊組 草野 那月

今年度の英語暗唱コンテストは、私にとって二度目の参加でした。

今年度は、昨年度までと違い、表情を豊かにすることや、声の抑揚をつけること以前に、覚えること、そのものが難しく感じられました。昨年度までは、声に出して読めば暗記できました。しかし、今年度はこの方法では覚えることができませんでした。そこで、私は今までの練習に加えて、ひたすらCDを聞きました。しばらく聞いていた内に、CDの音声が頭に残るようになりまし。CDを聞き、覚えたら音読する…これを繰り返すうちに少しずつ暗記できました。CDを聞くことで、発音を直したり、表現の参考にしたりすることができたため、CDを聞くことの効果も実感できました。

冬休みが明け、クラス内予選の日、私は友達の暗唱を聞き、昨年よりもレベルが上がったと感じました。学年予選に参加しても同じ感想を持ちました。だから、本選に出場できると知ったときは嬉しい気持ちもありましたが、プレッシャーがかかり、緊張しました。

暗唱コンテスト当日、緊張しすぎて暗記したものを全て忘れてしまうのではないかと不安になりました。しかし、舞台上になると一気になんかの緊張がなくなり、楽しんで暗唱することができました。そして、順位が発表され、一位で私の名前が呼ばれたときは嬉しかったです。今まで練習してきた良かったと思えました。

今年度で暗唱コンテストは最後の出場です。だから、課題文が長くても、暗記することが困難でも、昨年度より完成度を高くしたいと思っていました。この目標は達成できたと思います。

高校進級後は、暗唱だけでなく、英文のスピーチにも挑戦していきたいです。

英語暗唱コンテストに思ったこと

一年菊組 二瓶 沙香

壇上に立ち話し始めると、眩暈がしそうな眩しい天井の照明に照らされていた。観客席が見えなかった。真つ暗で座っている人の様子が分からない。途端、笑い声が聞こえてきた。私はスピーチを終え同時に拍手が会場に響いた。私は、木で出来た舞台を後にした。

この文章は、私が英語暗唱コンテスト中学一年生一位に選ばれたまでの物語である。

「二瓶さん、あなたはこの度英語暗唱コンテスト予選を通過し、本選出場が決定しました。」

先生からそう言われた。私も吃驚だ。学年で十人の中の一人になったのだから。

放課後、説明会が有るとの事で、本選出場者は皆BAL2へ集められた。

そこには、なんと先輩が二人も。

「おー沙香ちゃん」「よろしくねー！」

先輩二人の冷静さに逆に気圧された。私との大きな差を見せ付けられた。

それからというものの、私はCDを何回も聞いて練習したり、英語の話せる人に発音を矯正してもらったりと、練習を積み重ねた。

その練習の成果として、私は学年一位という称号を頂いた。努力したものが実を結んだ。

いや、そもそも切っ掛けを作ってくれたのは、あの先輩達。それを意図して分かって言ったのか、将又何気ない一言だったのか、それは分からないのだが。

でも、一つ大事なことを知った。

人間が本気になった時の集中力。それは、自分でも吃驚するくらい長続きするという事。

今後は、何事にも恐れず冷静に、自分に自信を持って、胸を張って堂々としていられる、そんな自分を目指していきたいとおもっ。

英語暗唱コンテストで「国友賞」をいただいて

二年桃組 常岡 舞秋レイ

私は、幼稚園のころ、よく両親や先生に絵本の読み聞かせしてもらっていました。その中でピーターラビットは、とても懐かしいキャラクターだったので、今回の暗唱コンテストで「The tale of Pete Rabbit」の物語を選びました。

この物語は、ピーターといういたずら好きなうさぎが、母親の言うことを聞かずに、人間の畑を荒らし、怖い体験をするというものです。

私は今回のコンテストに向けて、一生懸命に練習をしました。はじめに物語り全体のストーリーを暗記しました。その後は、毎晩声を出して練習しました。特に気をつけた点は、発音、声の大きさ、語る速さ、視線でした。また、幼稚園の頃、先生が子供たちに読み聞かせしてくれていた時のことを思い出して練習しました。それはとても臨場感溢れる語り方でした。

コンテスト当日は、出番がくるまではあまり緊張しませんでした。でも、いざステージに上がってマイクを前にすると、緊張で思うように声が出ず、少しつかえながら暗唱しました。心の中ではストーリーを映画のように思い浮かべていました。そして本番を無事に終えることができました。

今回「国友賞」を受賞できてとても嬉しいです。英語の暗唱コンテストに参加したことによって、沢山の人の前に立つ自信もつきました。これからいろいろな語学のイベントにチャレンジしてみたいです。



ダンス発表会 ～協力してできたこと～

三年菊組 名波 綾花

いつのまにかぼんやりしていた私の耳に、「最優秀賞は、『外見至上主義』と、私たちの作品名を読み上げる声が届いてきました。」

私たちの班は、全員がそろって練習できることがほとんどなく、振り付けが全て決まったのが発表会の二日前でした。ダンスの振り付けを考えること自体が初めてだったので、最初はとても戸惑いました。しかし、みんなで案を出し合いながら、一つずつ振り付けを考えて、みんなで納得できるダンスを完成させていきました。練習では、鏡を見ながら、立ち位置がずれていないか、腕がしっかりと伸びているかなど、振り付けをそろえると言ったところを特に重視しました。しかし、最大の問題は、ダンスの練習に家庭の都合で参加できない友達がいなことでした。発表会の4日前に、初めてダンスの練習に参加しました。今まで全く参加していなかったのが、振り付けを最初から覚えなければいけません。私たちが全員で振り付けを教えたり、アドバイスをしたり、協力して振り付けを完成させていきました。

そんな中、迎えた本番当日、きちんと踊れるのか、とても不安でした。けれども、中学校生活最後の行事なので、今までの努力を信じて、最高の舞台にするという気持ちで挑みました。発表が終わった後、振り付けで間違ってしまったり、タイミングが合わなかったり、後悔することもたくさんありました。しかし、それ以上に達成感が大きかったです。

このメンバーで、心一つに、ダンス発表会の舞台上に立てたことを嬉しく思っています。



